

子どものおもちゃ遊びを個別支援に活かす ～知りたい!作業療法士の視点～

やまだリハビリテーション研究所

作業療法士 山田 剛

1. 作業療法士の戦略の視点

- ① できないこと、できること、伸ばしたいこと、できれば減らしたいこと
- ② 「なぜ？」を考える事
- ③ 「仮説」を考える事
- ④ プログラムを考える
- ⑤ 多職種連携する
- ⑥ 解決できないこともたくさんある

2. 解決するための手段

- ① 正常発達を参考にする
- ② 環境に働きかける
 - オモチャや課題の選択
 - 道具の選択
 - 机やいすなどの姿勢の選択

3. 正常発達を考える

- ① 頭尾の発達
- ② 近位から遠位への発達
- ③ 握りの発達
 1. 手のアーチのこと
 2. 分離すること

4. 握りの基本的な練習は3指握りを目指す

- ① 筆記道具
- ② 食事道具

どちらも3指握りが出来るようになることを目指そう

その延長にお箸の操作があります

5. できない理由は何かな？

- ① できない理由は様々、原因に応じた対策を考える
 - 矯正的に持ち替えても意味が無い
- ② 異常な筋緊張
- ③ 発達の遅れ、未成熟
- ④ 経験不足
- ⑤ 視知覚の問題
- ⑥ 感覚の問題

6. 課題を段階付けるという視点

- ① 正常発達を考慮した段階付け
- ② 成功体験を増やす段階付け
- ③ スモールステップの重要性
- ④ 待つことも必要

7. 評価、プログラムを実践するのに必要な観察の視点

- ① 観察することが最も大事な評価になります
- ② たくさんの子供たちと接することが一番のトレーニング
- ③ 比較することが重要です
 - 「あの子にできて、この子はできない」ところが違う？

8. いつもうまく展開できるってことはない

- ① 1週間に1回しかハッピーがやってこないこともある
- ② ゆっくり育つ子もいます
- ③ 変化を見つける「目」を持つことが必要

9. 基本的には個別的な対応が必要です

- ① 取り組む課題によっては集団が効果的なこともある
 - ソーシャルスキル
- ② 手の課題は個別的対応が多くなります

10. リハビリテーションは魔法ではありません

- ① 変化することもあれば、効果がないときもある
- ② だけど諦めません

11. リハビリテーションを実施するのに必要な視点

- ① 対象者の評価
- ② 目標の設定
- ③ 目標を達成するのに必要なプログラム
- ④ 目標を達成するために獲得すべき機能・能力

12. 課題の分析という視点

- ① 課題を実行するのに必要な機能や能力
 - 身体機能や運動機能
 - 感覚機能
 - 認知機能
- ② 課題を段階付けする
- ③ 日常生活に汎化させることのできる課題



WHY を常に考える

13. 「黒ひげ危機一髪」をリハビリテーションとして考える

- ① 黒ひげ危機一髪を実行するのに必要な能力とは？
 - 運動機能
 - 感覚機能
 - 認知機能
- ② 黒ひげ危機一髪が上手に遂行できることは、どのような日常生活能力に活かすことができるのか？
 - お茶碗を持つこと
 - ボタンをはめること
 - 順番を待つことなどなど色々あります、ほかにどんなことにつながっていきますか？

14. ビー玉遊びをリハビリテーションとして考える

- ① ビー玉遊びに必要な能力とは？
- ② ビー玉遊びを日常生活に活かすことができるか？

15. プログラム立案に必要な視点

- ① 目標達成に必要な能力・機能
- ② 課題やアクティビティに必要な能力・機能
- ③ 子供の現時点の能力・機能

この3つの接点を探ることがプログラムの立案です

16. 「くっつける課題」をどう使い分ける？

ままとトントン vs ブロック

握りの変化と課題のこと

手掌回外握り

【握りの状態】

手のひらを上に向けて握る。握った物の中心は手のひらにある
肘が運動の中心となる時期。

【練習の狙い】

体幹をしっかりと鍛えることが必要。肩甲帯周囲の安定性を高める必要がある。

片手ボールを投げることができる

おたまでボールをすくうことができる

ぐるぐる描きができる

トンネルくぐり

バランスボールでキャッチボール

巧技台に乗る、降りる

手指回内握り

【握りの状態】

手のひらは中間か下向き、指先を中心に物を把持する

【運動の様子】

運動の中心は肘関節と前腕。物の把持が手掌から手指の指腹部へと移行してくる。
指腹部で把持できるようになるが、つまみの力は弱い。

【練習の狙い】

指先での把持練習を多くする時期

黒ひげ危機一髪

アイクリップ、洗濯ばさみ

ピンセット、トング

大き目のブロック

太いペグ

目玉クリップで鉛筆を持つ

クリーム泡立てるような動作

静的三指握り

【握りの状態】

三指握りにになっているが、動作の中心は手関節で指先の動きはない、あっても少ない

【動きの様子】

三指握りで動作を積極的に練習する。書字などの課題では手部が机上から浮くことも多い。

【練習の狙い】

手関節や指先の動きを伴うような、動作を積極的に行う。

薬指・小指は握るけれども、母指、示指、中指は操作をするという分離的活動が必要になる

スプーンでビー玉をすくう

すくったビー玉をマス目に入れる

三角ホルダーで書く

はさみを切る動作 1回切りが出来る

小さなペグ

レゴブロック

トランプをめくる

5枚くらいのトランプを持つ

おはじきや、ビー玉5つくらいを片手で持って、1つずつ手の中から出す

動的三指握り

【握りの状態】

三指握りができ、指先の動きも出て操作をすることが出来る。

指の関節の動きが少しずつ出て来る。

とう側(母指、示指、中指)と尺側(薬指、小指)の分離が進む

小さな升目に書くことが出来る

手部を机上に載せた動作ができるようになってくる。

マス目に文字を書く

向きを変えながらハサミ操作が出来る